

沖合黒潮調査 2018. No. 1

平成30年2月28日
和歌山県水産試験場

漁業調査船「きのくに」は2月27日に潮岬南沖55マイルの漁場調査を行った。

西日本は西からの移動性高気圧に覆われる。調査時の海上は風が比較的弱く風であった。

調査結果は以下のとおり。

		潮岬南沖
黒潮中心部		55マイル
流速（流向）		2.6kt（ENE）
黒潮表面水温		20.3℃
黒潮強流帯の北縁		50マイル付近
沿岸漁場水温 表層		15～18℃台
	（2～5マイル） 50m	15℃台
	100m	14℃台
	150m	13～14℃台

黒潮など（図1）

関東東海海況速報によると、黒潮は室戸岬～潮岬で離岸、熊野灘沖から大きく蛇行し、遠州灘沖で31°N以南に達している。室戸岬東岸では暖水波及がみられるが、紀南沿岸域～熊野灘沿岸では暖水波及はみられず単調な海況である。

沖合・沿岸の流況および水温（図2、3）

今回の調査では潮岬南沖55マイルの水深200mで16.99℃を観測した。水深200mの黒潮の指標水温が16.0℃以上であることと流況から、黒潮中心部を55マイルと判断した。黒潮は潮岬沖で離岸している。

ADCPによる流況結果から、潮岬正南25マイル付近までは西向流、これより以遠では狭い範囲の北上流を除いて東向流であった。西向流は沿岸域で深層ほど顕著であり、同岬10～20マイルでは流速は上層で速い傾向であった。

表層（10m）の流れは、潮岬正南25マイル付近までは西向流で、流速は沿岸寄が1kt未満、同岬9～25マイルは1～1.4ktであった。同岬30マイル付近から東向流となり、同岬33マイル付近まで流速1kt台、これより以遠で2kt台であった。黒潮流域内の同岬55マイルは2.6ktであった。

表面水温は、潮岬沿岸の距岸2マイルは15℃台、同岬3～4マイルは15～18℃台で変化が大きい。同岬5～20マイルは概ね18℃台、同岬30～34マイルは19℃台、同岬35マイル～黒潮流域内は20℃台であった。

潮岬正南2～5マイルの沿岸では、15℃水温は水深67～89mにあり、下層の低温化は顕著である。

その他

潮岬正南36マイル付近でマッコウクジラ3頭、45マイル付近でイルカの群れを目視した。

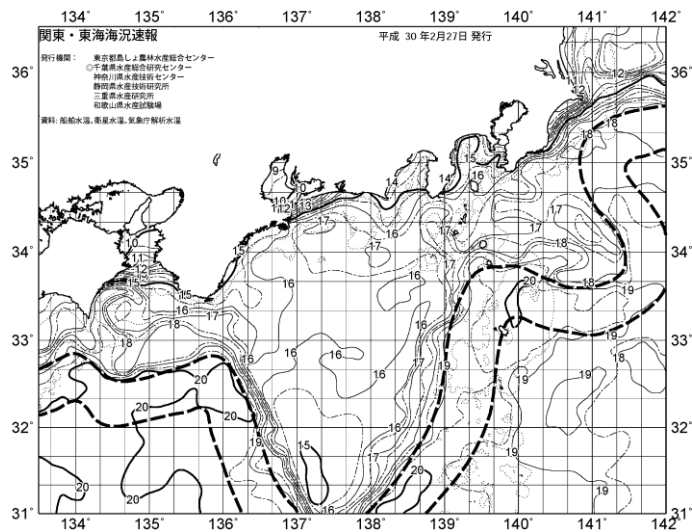


図1 調査時の海況図（関東・東海海況速報 2018年2月27日版）

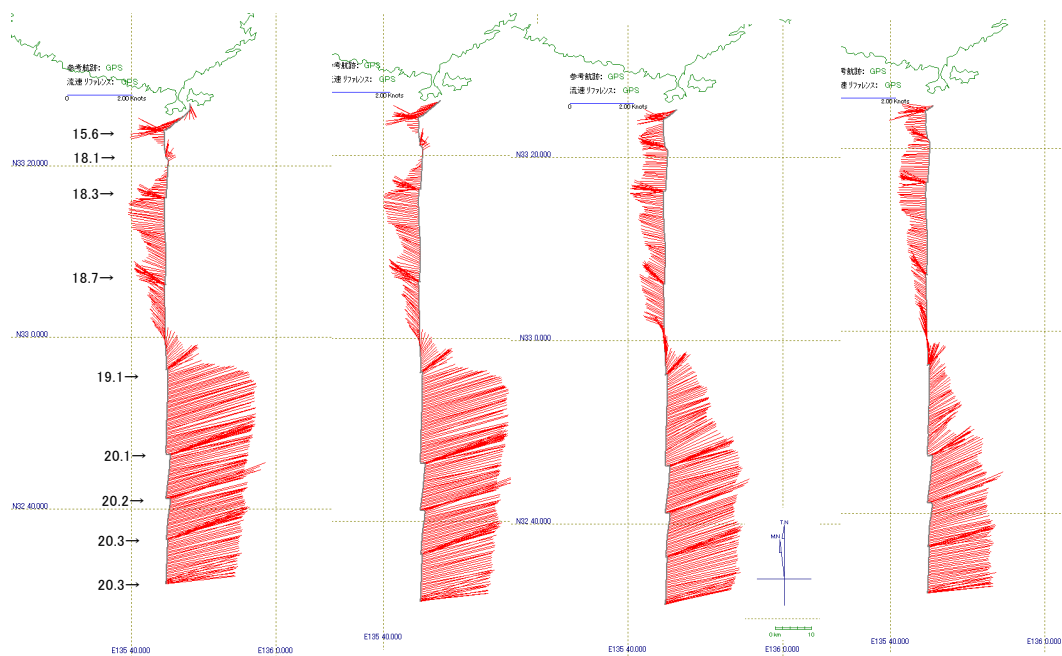


図2 潮岬沖合の海況（2018年2月27日観測）

図は左より往路表層（17m）、49m層、97m層、153m層の流況、図中の数字は表面水温を示す。

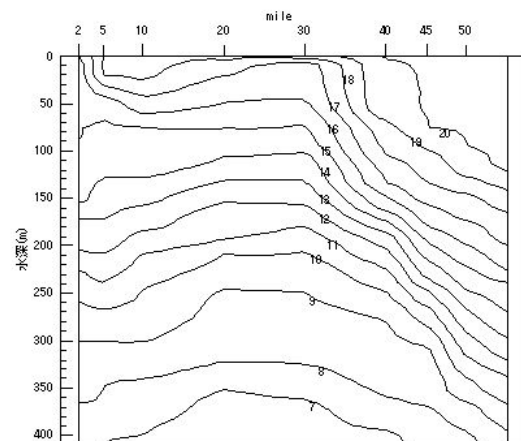


図3 潮岬南沖 55 マイルの水溫鉛直分布図（2018年2月27日観測）

沖合黒潮調査 2018. No. 2

平成 30 年 11 月 22 日
和歌山県水産試験場

漁業調査船「きのくに」は 11 月 21 日に潮岬南沖 80 マイルの漁場調査を行った。
九州から東日本は移動性高気圧に覆われる。調査時の海上は風が弱く風であった。
調査結果は以下のとおり。

		潮岬南沖
黒潮中心部		75 マイル
流速 (流向)		4.0 k t (SE)
黒潮表面水温		24~25℃台
黒潮強流帯の北縁		70 マイル付近
沿岸漁場水温 表層		20℃台
(2~5 マイル)	50m	20~21℃台
	100m	17~18℃台
	150m	13~14℃台

黒潮など (図 1)

関東東海海況速報によると、黒潮は室戸岬で離岸、潮岬沖から大きく離岸、大王埼沖の 31° 30′ 付近を蛇行の谷とし、伊豆諸島海域を北上している。遠州灘から内側逆流の 22℃前後の暖水が熊野灘沖から潮岬沖に達している。潮岬沖の黒潮北縁から四国に向かう暖水が紀伊水道沖を覆っている。

沖合・沿岸の流況および水温 (図 2、3)

今回の調査では潮岬南沖 75 マイルの水深 200m で 16.01℃を観測した。水深 200m の黒潮の指標水温が 16.0℃以上であることと流況 (流向 122°、流速 4.0kt を観測) から、黒潮中心部を 75 マイルと判断した。黒潮は潮岬沖でかなり離岸している。

ADCP による流況結果から、潮岬正南 32 マイル付近までは西向流、これより以遠では狭い範囲の南下流を除いて東向流であった。西向流は深層ほど南下流の傾向がみられた。

表層 (10m) の流れは、潮岬正南 32 マイル付近までは西向流で、流速 1kt 未満の比較的緩い流れは広範囲を占めるが、熊野灘沖からの内側反流域とみられる同岬 20 マイル付近は 1kt 前後で最速となった。同岬 45 マイルでは東向流の流速は 1kt 台となり、同岬 57 マイル付近から 2kt 台であった。同岬 67 マイル付近以遠では、同岬 71~75 マイルの最強流域の 4kt 台を除いて、流速は 3kt 台であった。

表面水温は、潮岬正南 20 マイルでは 22.0℃で、これは熊野灘沖からの内側逆流の暖水とみられる。同岬 20~60 マイルの定点は概ね 22℃台。同岬 70~75 マイルは 24℃台、同岬 80 マイルで 25.0℃を観測した。黒潮流域内は 24~25℃台であった。

潮岬正南 2~5 マイルの沿岸では、15℃水温は水深 130~140m にあり、下層はやや低温傾向である。

その他

潮岬西岸の距岸 2 マイル付近で曳縄船数隻の操業を目視した。

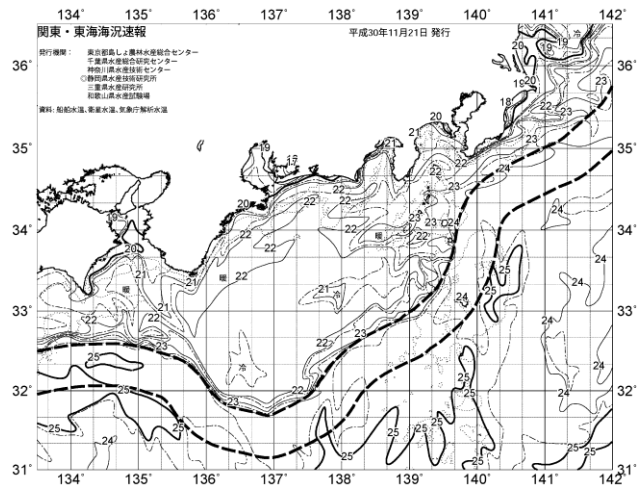


図1 調査時の海況図（関東・東海海況速報 2018年11月21日版）

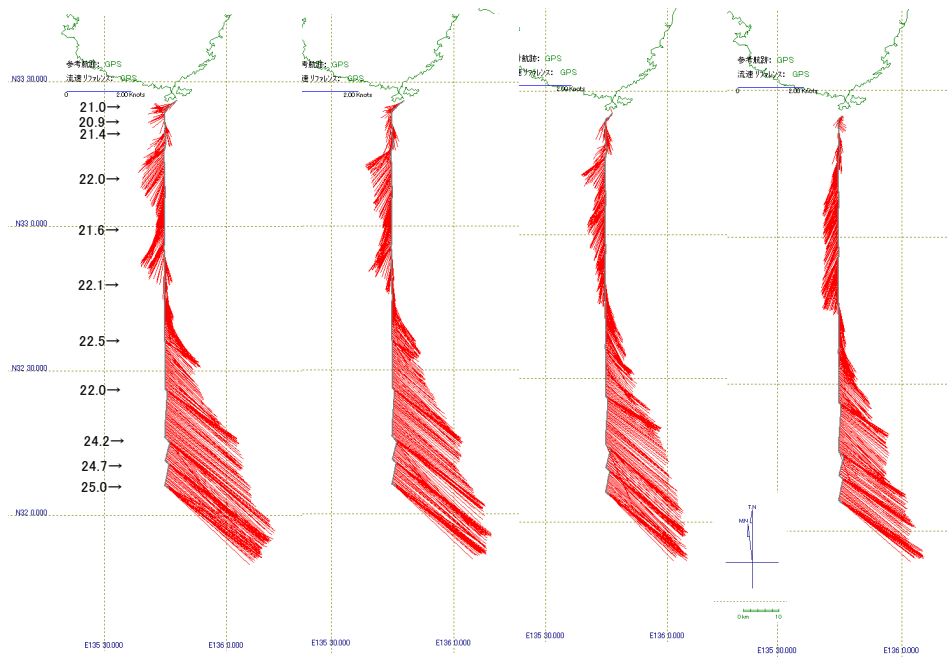


図2 潮岬沖合の海況（2018年11月21日観測）

図は左より往路表層（17m）、49m層、97m層、153m層の流況、図中の数字は表面水温を示す。

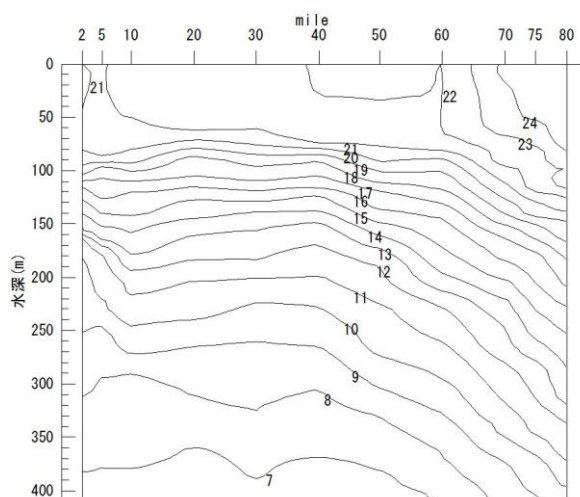


図3 潮岬南沖80マイルの水溫鉛直分布図（2018年11月21日観測）

沖合黒潮調査 2018. No. 3

平成 30 年 12 月 25 日
和歌山県水産試験場

漁業調査船「きのくに」は 12 月 20 日に潮岬南沖 80 マイルの漁場調査を行った。

西日本は移動性高気圧に覆われる。調査時の海上は一時的に西よりの風がやや強くなったものの比較的凪であった。

調査結果は以下のとおり。

		潮岬南沖
黒潮中心部		80 マイル
流速 (流向)		4.2 kt (ESE)
黒潮表面水温		22℃台
黒潮強流帯の北縁		76 マイル付近
沿岸漁場水温 表層		19~20℃台
(2~5 マイル)	50m	19℃台
	100m	19℃台
	150m	16℃台

黒潮など (図 1)

関東東海海況速報によると、黒潮は室戸岬で離岸、潮岬沖から大きく離岸、遠州灘沖の 31° N 付近を蛇行の谷とし、伊豆諸島のすぐ西を北上している。遠州灘から内側反流の 21℃前後の暖水が熊野灘南部沖に達している。潮岬沿岸域は 19℃台であるが、同沖合は広範囲に 20℃台の暖水に覆われる。

沖合・沿岸の流況および水温 (図 2、3)

今回の調査では潮岬南沖 80 マイルの水深 200m で 17.02℃を観測した。水深 200m の黒潮の指標水温が 16.0℃以上であることと流況 (流向 114°、流速 4.2kt を観測) から、黒潮中心部を 80 マイルと判断した。黒潮は潮岬沖でかなり離岸している。

ADCP による流況結果から、潮岬沿岸域から同正南 47 マイル付近までは西向南下流が卓越し、これより以遠では東向流であった。西向流の流速は最大で 1.6kt 程度、1.0kt 未満は広範囲であった。東向流は潮岬正南 73 マイル付近から流速 2.0kt 台、同 76 マイル付近から 3.0kt 台、同 78 マイル付近から 4.0kt 台であった。潮岬沿岸 2 マイル定点では、表層・49m は西向流、97m・153m は東向流であった。

表面水温は、潮岬沿岸 4 マイル付近までは 19℃台で、同正南 4 マイルから同 78 マイル付近までは 19~20℃台で、ここでは遠州灘から内側反流の暖水とみられる 20℃台が広範囲を占める。同 78 マイル付近から 21℃台となり、同 80 マイル付近は 22℃台であった。

潮岬正南 2~5 マイルの水深 150m では 16℃台であり、沿岸域の中層の低温化はみられない。

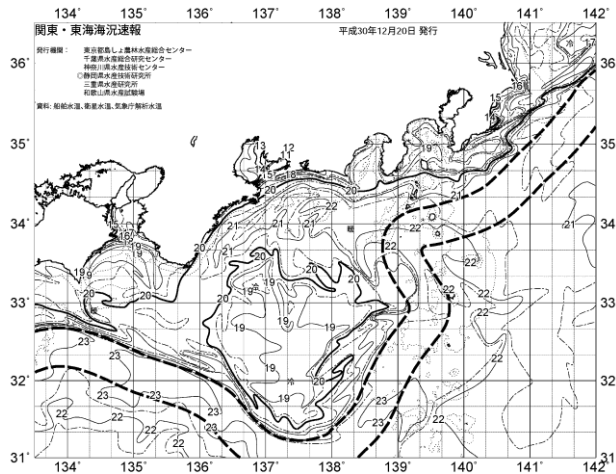


図1 調査時の海況図（関東・東海海況速報 2018年12月20日版）

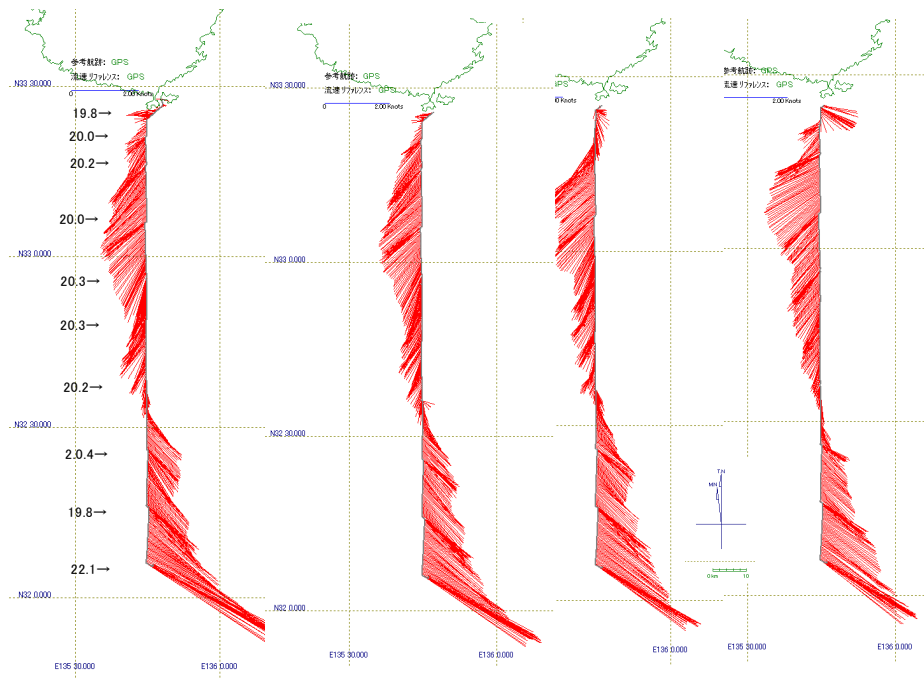


図2 潮岬沖合の海況（2018年12月20日観測）

図は左より往路表層（17m）、49m層、97m層、153m層の流況、図中の数字は表面水温を示す。

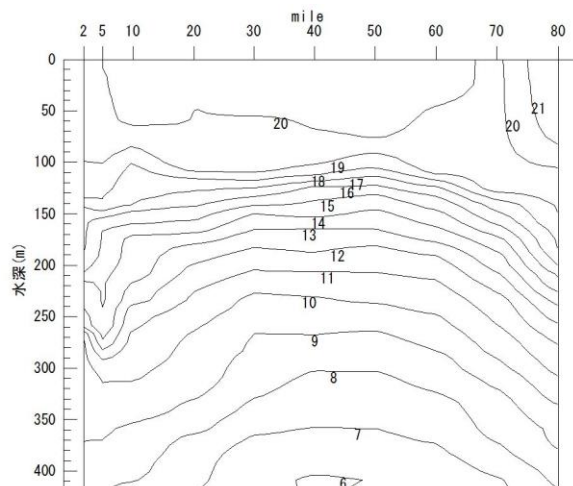


図3 潮岬南沖80マイルの水温鉛直分布図（2018年12月20日観測）